

看護師を続けられる喜び

坂下 守弘（東京都立駒込病院看護部）

中学生の頃、祖母の定期受診のため病院に同行し、男性看護師という職業があることを知りました。進路決定をする際、人の役に立てる、看護師を将来の職業に決めました。

看護師1年目の頃は午前中に終わらせておきたい処置も終わらない日が続きました。十分患者対応が出来ずに、落ち込む時もありました。しかし、夜遅くまで一緒に残り指導してくれた先輩がいたこと、患者が熱で汗をかき、身体を拭いて「さっぱりした。ありがとう。」と感謝の言葉を述べられる患者がいたことで、頑張っていこうと思いました。私が勤めている病院はがんと感染症を重点に取り組んでいます。がんは身体的な痛みばかりではなく、再発・転移の不安がある病気です。がん患者と転移・予後の不安の話を聞いていた時、「話せてよかったわ。誰かに聞いてもらいたかったのかもしれない。ありがとう。」と言ってくれました。私は、患者の声に耳を傾けることで、わずかでも患者の不安が軽減出来るのだと体験しました。

仕事が「憂鬱だ、辛いな、大変だ。」と思いながらもなぜ看護師を続けているのかと言えば、私のことを根気よく見守り指導してくれる先輩が居ること。患者から「貴方が担当でよかったわ」と言ってくれる患者、時に苦言を呈してくれる患者が居たから続けられたのだと確信しています。人々の支えがなければ、看護の素晴らしさ、看護師としての誇りを持たず、挫折していたと思います。今まで出会った人々への感謝を忘れることなく、これからも、看護師という職業に誇りを持ちながら患者と向き合っていきたいと思います。